

手技療法家ための2大競技会開催

第7回医療オリンピックC-1 2009

第1回治療家甲子園

昨年の10月と11月に手技療法家のための大きな競技会が行われた。第7回医療オリンピックC-1 2009と第1回治療家甲子園だ。

医療オリンピックは治療技術や治療の知識を競い、治療家甲子園は治療に取り組む姿勢や熱い想いを競い合う催しだ。いわば技術と心の二大競技会だ。注目されたこのイベントをレポートする。

医療オリンピックC-1

医療オリンピックは「第7回医療オリンピックC-1 2009」が正式名称で、10月18日に東京国際フォーラム・ホールD7に観客3000人を集めて行われ



た。ちなみに「C-1」のCとはCURE & CAREで治療・医療とケアを意味し、C-1とは治療・医療とケアのナンバーワンとのこと。

このイベントは、東京と千葉に治療院を約70店舗かかえる、千葉県船橋市の株式会社CMC（代表近藤昌之氏）が主催している。平成17（2005）年からCMC以外の治療院の参加も認め、年を追うごとに治療家の競技会としての地位を築いている。

競技は医療知識、鍼の早打ち、包帯の早巻きの3部門からなる。

医療知識を競う「医識王」への参加は当日会場に来た全員。予選は会場内に医療に関する問題50題が順次プロジェクトで映し出され、参加者は事前に手渡さ

れた回答用紙に記入し、終了後解答用紙は回収される。この中から正解数が多かった上位5人が壇上に上がり決勝が行われるシステムだ。決勝戦はこの5人が司会者から出題される問いに早押し形式で答え、正解5問を先取した人が「医識王」となった。

鍼の早打ちを競う「刺鍼王」は事前に選出された12人のはり師が参加し、一寸三分と一寸六分の鍼を1分間で何本打てるか競うもの。競技者の前には現在何本打っているのかハッキリ分るように電光カウンターが設置され、見ている人にとって進行本数が分り、会場は応援者の熱い声援が飛び交っていた。

3部門目は「包帯王」で、これは、包帯巻きの早さと正確さを競うものだが、単なる巻く早さにとどまらず、見栄えがよいこと、きつさが適当であること、実用性があることが求められる。そのため巻き終わった後にチェックする審査員もいる。予選では巻く部位も足だけだったが、決勝では足、膝、肩、指など5種類の包帯を巻かなければならない。

これら3部門とも競技としてわかりやすく、オリンピックの冠に恥じない内容だ。

各部門の優勝者は次のとおり。

医識王 矢部仁章（市川真間整骨院）

刺鍼王 金田翔夢（西船中央整骨院）

包帯王 小川芳明（ニコニコ三鷹整骨院）